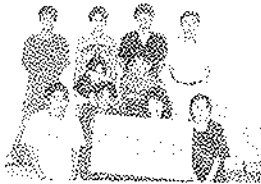


まち・コミ

6月号

1998年6月1日発行

発行

阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション〒653-0014 神戸市長田区御蔵通 5-5 兵庫商会 3F
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961
e-mail koitirou@mvi.biglobe.ne.jp
URL http://sakuraia.c.u-tokyo.ac.jp/mikura/

今年も暑い夏がやってくる!?

第3回 御蔵学校



～開校のお知らせ&生徒募集～

6000人以上の犠牲者をだした阪神大震災から、すでに3年以上が過ぎましたが、現在被災地はどうなっているとお考えですか・・・?

被災地に泊まり込んで、被災地の方の様々な体験や復興への努力から学び、私たちの暮らしを見つめ直そうという学習会“御蔵学校”を企画いたしました。3回目となる今回は、「一般の方」向けと「福祉系に興味を持たれている方」向けの、2つのコースを用意いたします。

初めての方も、2回目という方も、是非ふるってご参加下さい!!

日時 / 98年 8月21日(金)～23日(日) <2泊3日>

定員 / 20名 (一般コース10名・福祉系コース10名)

参加費 / 社会人8,000円: 学生5,000円(宿泊費・市内移動交通費・資料代含む)

◎食費は自己負担・宿泊は神戸市長田区内ボランティアグループの事務所となります。

スケジュール /

8月21日

12:30集合

- ・オリエンテーション
- ・被災地のこの3年間
- ・コース別学習

夕食

- ・被災者の方からお話を伺う

8月22日

朝食

- ・コース別学習
- 市内各地域3ヶ所ぐらゐを見学、お話を伺う

昼食

- ・引き続き見学
- ・講師の方のお話

懇親会

8月23日

朝食

- ・大規模仮設住宅の見学
- ・まとめのワークショップ

13:00 解散

(午後 希望者がいれば説明会や見学会を企画)

★お申し込み・お問い合わせは、上記「まち・コミ」連絡先までお気軽にどうぞ!

もくじ

- P1 「第3回御蔵学校」開校のお知らせ
- P2 あなたの声『まち・コミ』が……
- P3 焼け跡のくすぶり ～八回～
- 神戸世相 ～きのう・きょう～
- P4・5 震災・まち・ひと 第5回

P5

まち・コミ おすすめBOOK

P6

「公的支援」のあとさき-1-

大般若会に参加して

P7

まち・コミ 今月の活動

P8

まち・コミ今月も行く/募金・協力のお礼
カンパ・募金のお願い/編集後記



あなたの声

『まち・コミ』が引き受けます!!

現在この月刊『まち・コミ』は、これまで“まち・コミ”が活動する中で出会った方、お世話になった方、お付き合いの始まった方……全国のいろいろな方にお送りさせていただいています。

創刊からまもなく1年が経とうとしていますが、ここらで「被災地からの情報発信」という役割と合わせて、現在読者の皆さんが関心のあること、問題に感じていること、情報を得たいことを誌上に取り上げ、互いのコミュニケーションの場にしていきたいと考えています。(これは『ひと・コミ』?)

「まち・コミ」〇月号のXXの記事の△△について、こんなこと感じました。
「まち・コミ」〇月号に出ていたXXさんに質問があります!
被災地の〇〇のこと、〇〇の活動をしている、こんな人・団体を教えて!
自分はこんな活動をして、〇〇についてこう考えるが、他の読者の方はどうか。
あのとき“まち・コミ”を通じて出会ったあの人は、今どうしている?
「おすすめBOOKS」に載ってた本、読みました! (で、感想は?) などなど

「頭に浮かんだ小さなこと」から「自分の胸にはしまえない大きなこと」まで、お手紙・お電話・FAX・E-mailなどで、お知らせください!
スタッフ一同“あなたの声”をお待ちしています!

〒 653-0014 神戸市長田区御蔵通 5-5 兵庫商会 3F
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961
e-mail koitirou@mvi.biglobe.ne.jp

＝決算報告その2＝

期間/97年4月1日から98年3月31日まで

●収入の部

費目	項目	収入
前年度繰り越し		2,084,272
管理費	販売収入	74,400
	事業収入	637,082
会 計	募 金	3,063,897
	助成金	3,076,000
	利息	1,412
	預り金	★ 1,600,000
合 計		9,537,063

《備考》
★1…旧 SVA 事務所撤退費用として SVA より一時預かり
★2…ボランティアの食事補助



●支出の部

費目	項目	支出
管理費	給与	1,949,196
	ボランティア保険	5,000
	商品仕入れ	116,000
	謝礼・御礼	35,400
	出張宿泊費	13,710
	他	3,000
	合 計	
設 備 費	一般・コンピュータ関連	119,322
	助成金による機器購入	1,015,214
情報収集費	書籍購入・講演・シンポジウム	400,452
通 信 費	郵便・・・携帯電話補助	979,960
運 搬 費	宅急便など	19,410
交 通 費	交通費	566,990
コピ一・印刷費	コピー・印刷費	141,237
文房具・事務費	文房具・事務費	210,609
映像・記録費	映像・記録費	84,865
会 議 費	会議費	83,549
食 費	食費	★ 2 94,772
水・光熱費	水・光熱費	38,400
他	地域イベント経費など	263,615
諸雑費	諸雑費	16,527
残高	98年度へ繰越し	276,068
合 計		9,537,063

焼け跡のくすぶり／＼八回／＼

【時間的経過にむなしさをみる】

「被災者生活再建支援法案」がやっと可決成立した。阪神・淡路大震災の被害者については、内容は極めて不満なもので、これだけのものが、何でこんなに時間がかかってとさえ感じられるが、ともあれ、その都度上京を重ねて訴え続けられた人々の熱意が、まず小さな穴を開けたと言ってもよいだろう。

また、災害は、当事者でなければ、なかなかわかってもらえぬもどかしさを感じる。そして同時期に、再生銀行の「みどり銀行」が阪神銀行に吸収されるということが報じられた。それはまさに、みどり銀行が人間にさえ見えた。震災による痛手と長引く景気低迷で、病人は耐えられなかったのだろう。

それにしても、震災で傷ついた土地のことを真剣に考えて、地元銀行の必要性を訴え、「みどり銀行」が実現したのではなかったか。

県、市を始め、神戸財界、そして県民、市民が本当に地域銀行として育てるといふ気概が、何にもまして必要だったのだ。誰かがやってくれるだろうじゃなくて、全員がみこしをかつぐ気持ちだ。

この二つをみて、時間的経過と、それに対する報いとは一体何なのだろうと考えてしまう。そして、何だか今の神戸っ子は昔と違って、どうも当事者意識に欠け、打開に向けて足並みが揃わないように思う。今、何が必要なのか、何をしなくてはならないのか。被災しているのは我々であり、神戸銀行なきあと、地元銀行は「みどり」であり、「阪神」である。もう一度、海あり、山あり、明るい住み良いまち、神戸の再生に力を尽くそうではないか。

(株)兵庫商会 田中保三

～神戸世相～ きのう・きょう

◎心機一転、復興支援工場操業開始、神戸市・兵庫区、シューズ業者など6社(98.5.6 神戸新聞) 阪神淡路大震災で社屋を失った中小製造業者向けに、神戸市が兵庫区内に建設していた復興支援工場の第1期分2棟が完成。6日午前、ケミカルシューズ業者など一部が操業を始めた。

◎岐路に立つ仮設診療所、住民転居で患者激減、最後の一人まで/復興住宅近くに移転(98.5.7 神戸新聞) 仮設診療所は周囲に医師のいない仮設団地の住民のために、95年9月までに兵庫県内9カ所で開設された。しかし、今春をピークとする転居ラッシュで患者が激減。経営難と「最後の一人まで診たい」という思いの間で、医療体制の復興住宅へのシフトも課題に。ある診療所は、住民と共に復興住宅へ移転する一方、週2回の仮設診療も続け、ケアのあり方を模索する。

◎再建支援法案を可決、付帯決議も採択、5年後の見直し盛る(98.5.15 神戸新聞) 衆議院災害対策特別委員会は14日、与野党6党が共同提案した「被災者生活再建支援法案」を審議、共産党を除く賛成多数で可決した。さらに、阪神・淡路大震災の被災者への行政措置を求めた参議院の付帯決議に、施行5年後の法案見直しを加え、全会一致で採択した。

◎震災データベース完成、隠れた活断層など判明(98.5.15 神戸新聞) 阪神・淡路大震災で、神戸市内の市街地の建物被害と地盤との関係や隠れていた活断層についてまとめたデータベースが完成、神戸市が14日に発表した。地質学上、最近になって形成された扇状地などの建物被害が大きいことや、活断層については、地表に現れていない伏在活断層の全体像が、初めてわかった。調査結果について9月頃までにまとめるほか、研究者がデータベースを活用できるシステムを検討する方針。

街戻り 人帰れず、地区内復帰見通し5割 資金面などめどたらず、神大教授 鷹取東地区の被災者調査(98.5.24 神戸新聞) 同地区には震災前に905世帯が居住、97%が全壊全焼、または半壊し、95年10月にはうち8割が同地区を離れた。調査対象世帯(577世帯)のうち「戻っている・戻る見込みがある」のは32.3%にとどまった。今年3月現在で仮換地率が93%と一帯では最も進んでいるが、資金面などから、依然として住宅再建が困難な被災者の現状が浮き彫りになった。

震災・まち・ひと

— 第 5 回 —

住まい再建へのレシピ①

「住まい再建」

一口に言ってもそこに至るまでの道程は容易ならざるものがあります。住み慣れた家が一瞬のうちに破壊され、または消失した方々が、再建を目指すにあたって直面した・している現実や課題を、このリニューアル「震災・まち・ひと」コーナーでは今回から3～4回に渡って皆様にお伝えできればと思います。今回はその概略について…。

1. なぜ再建は容易ではないのか？

◎権利関係◎

俗に「ABCの関係」と呼ばれている。曰く、A=地主・B=借地・C=店子。市街地ではこの3つの立場が複雑に絡んでおり、それぞれの立場で再建の条件が変わってくる。特に、C=店子の立場の方は、AないしBの立場の方が再建しない限り、同じ所に戻ることは大変困難だ。

【例】

AAA=自分の土地の上に住んでいる
ABB=人の土地を借地して住んでいる
ABC=土地を借地した人が建物を建て、その部屋を借りて住んでいる
AAC=地主が建物を建て、その部屋を借りている

【例】

▽建て替えをして2年もせずにして震災により全焼（40代夫婦）
→土地が担保に入っていると金融機関から借り入れは困難
▽長年住みつけた自宅が全焼（70代夫婦）
→基本的には年齢の問題で借り入れは困難

◎年齢と資金◎

戸建ての家を建てるためにかかる費用が安からぬ金額であることはご存知の通り。震災で家屋を失った方々はまさしく「一から」始めねばならず、まだ住宅ローンが残っている人はそれを抱えながらの再出発になる（ただ、土地が担保に入っていたら新たな借入金は極めて困難になる）。また高齢の方は再建の意欲があっても相当額を貸してくれるところがない（ただし、意欲があっても返すメドがなければならぬが…）。

◎土地の広さ◎

特に、長田区のような下町が顕著であるが、一戸あたりのもともとの敷地が狭小（12～3坪前後）な場合、現行の建築基準法どおりに家を建てると非常に住みにくい家になる（恐れがある）。震災前の建物が「既存不適格」とされている以上、「元通り」には絶対にならない。

【例】

45㎡（約13.6坪）の土地を所有している人は建ぺい率70%だと31.5㎡（9.5坪）の建坪面積しか確保できない。

◎リスク・収益性（家主の場合）◎

「文化住宅」と呼ばれる低家賃の木造賃貸住宅が数多く消失し、そこに居住していた多くの方が仮設住宅に入居した。文化住宅の家主が賃貸住宅を新たに再建すれば、当然家賃は跳ね上がり、元の居住者が払える金額ではなくなる。家主とすれば新しい「借り手」を見つけなければならないリスクが生じる。

その他マンションにお住まいだった方々は、補修 or 建て替えを巡る問題が発生しています。

2. 再建のみちすじを探るための要素



千歳地区
灘取地区
御船地区

《住まいのタイプ》

◆一戸建て◆・・・基本的には独力で家を建てる。自分の思う通りにできるが、資金調達・設計・諸手続きも基本的に自力で行わねばならない。

◆協調化住宅◆・・・近隣の人たちと一定のルールを作り、それを守ることで建築的な制限を一部緩和することができる。「町並み」にも貢献。

◆共同化住宅◆・・・各人の土地を一つにして、マンション形式の建物を建てる。土地は区分所有となるが、土地の広さに制限されない大きな間取りが確保できる。支援体制も多々あり。

◆民間賃貸へ入居◆・・・家賃の問題がネック。

◆公営住宅へ入居◆・・・入居資格がネック。

(◆マンション再建◆・・・マンションが半壊・全壊の判定を受けた場合、管理組合の決議で補修か建て替えを決める。建て替えの場合は要するに「新築マンション」を建てるのと同じプロセスを辿ることになる)

《住まいの「中身」》

★バリアフリー★・・・段差のないつくり。住宅の高齢化対策では必須項目。

★コレクティブ住宅★・・・「協住」の精神を建物に反映させた住宅。「共同スペース」を居住者で運営。

★その他（「居住性」）★・・・狭い玄関、急な階段、日の当たらない部屋 etc. 居住空間が住民の生活に大きな影響を与える。

《支援策の中身》

●震災特例融資●・・・低い金利、条件の緩和がなされている。

●利子補給●・・・住宅建設支援で最もポピュラー。当たり前の話だが、借りられる人しか使えない。



▲真野地区ふれあい住宅

次回からは「実践例」をご紹介します！また、ご意見・ご指南求めます！（おの）

まち・コミ おすすめ BOOK

『神戸のまちづくり、その光と影』

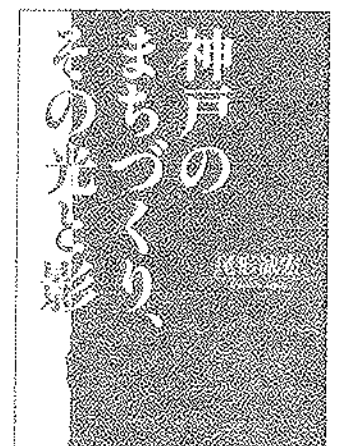
著者：尾形誠宏 発行：(株)日本図書刊行会

著者は36年間、神戸中央市民病院の医師として過ごした中で、日頃から感じていた「神戸市のあり方」をまとめた。

主に前宮崎市長時代から、震災を経た現笹山市長時代の「都市政策」に焦点を当て、その足跡をたどりながら、みなと再建、住宅再建・区画整理問題、空港問題など多岐の範囲にわたり、問題点を指摘している。

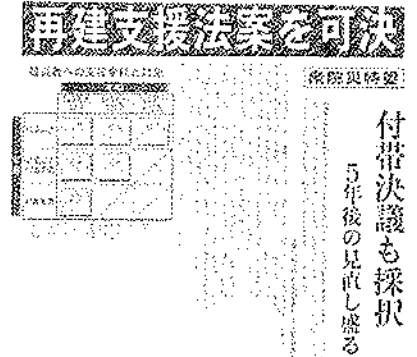
一貫して、「まちづくりの手法と視点は『住民主体・行政支援』の姿勢にあり、人権・環境・福祉を重視、文化・芸術、学術・教育、医療・保険、情報などを優先すべきだ」と訴えている。

文中で紹介される数々の文献・報告書も参考にできそうだ。（さかい）



「公的支援」のあとさき -1-

ご存知のように、過日「被災者再建支援法」が可決され、阪神・淡路大震災の被災者にも、同程度の遡及がなされることになりました。額としては100万 or 50万ということで、「これで足りるのか？」という疑問があります（5年後には見直しがなされるそうですが…）が、とにかくにも、テコでも「個人補償はしない」と言い張った国のがま口を開けさせたのですから、スゴイことです。公的支援法実現に向けて尽力された方々には、深く深く敬意を表します。今後日本のどこかで自然災害が起きたときは、条件さえあえば、とりあえず現金は支給されますよ。



▲ 98年5月15日神戸新聞

で、これでメダタシメダタシなのかというと、そんなわけない（はずだ）。

実は今、「震災しみん情報室」の実吉氏（この頃彼とは毎日顔を合わせている…）・「阪神大震災を記録しつづける会」の高森氏（手記本第4集「いま、まだ、きっと」絶賛発売中！）と一緒に企てていることがあります。

それは簡単にいうと「公的支援の話を支えてきた方々に、まずは『お疲れさま』と言おう。そして被災地の現状をみんなで共有しよう」というものです。「みんな」とは、被災地でなんらかの支援活動をしている NPO・NGO 的なグループの方々。「国会」というステージから返ってきた「球」を被災地にいる私たちはどう受け止め、「打ち返す」のか。できれば多くの立場・ジャンルの方々が材料を提示されることが大切ではないかと考えての企画です。

実は今日（5月30日）、約100近くのグループ・個人に、「エイド(AID)」と名付けたこの企画の呼びかけ文を、FAX で送信しました。その結果は次号で…。

（小野）

信濃進分 浅間山 曹洞宗

大般若会に参加して

田中保三



開山400年に当たる今年5月1日、御住職であり、前全国曹洞宗青年会会長の桜井朝教さんのご好意により、荘厳な大般若大会に参加させていただき、その後、100人余の地元の人達を前に「阪神大震災」を語ってきました。時にうなづき、時にハンカチを取り出して涙していただき、つたない話だったのに最後までしっかり聴いてくださり、本当にありがとうございました。

追分の字でわかるとおり、御当地は北国街道と中山道の分かれ道。翌朝お寺の内外をじっくり見せていただきました。大広間の襖全面に、当地で生まれた女流書道家稲垣黄鶴の揮毫の書に囲まれるや、その凛とした気が伝わってきました。

境内裏手の墓地にあっては、これが400年、そして最盛期には追分の旅籠が90軒余もあったと云われる宿場町のもので感じました。中に無縁仏の一群があり、飯盛女の塚か、行き倒れ童女の塚か、「泡雲幻夢童女」と墓碑がありました。木立の中に立って、それらを眺めていると、いつしか時代がさかのぼっていくような気がします。開祖の禅師・心庵宗祥禅師が、宿場町と切っても切れない無縁仏を、たくさん引き受けられたのでしょう。その哀愁が墓前に漂っています。

それからいくらかも離れていない所に、堀辰雄がこよなく愛し、「大和路、信濃路」にも描かれた樹下石仏（半跏思惟像）があり、片膝を立てて頬に手を当てた仕草から、「歯痛地蔵」と親しまれ、土地の人は「歯痛が治るように」と願いをかけたそうです。この仏さんも実に何ともユーモラスで、対面しているとほのぼのとした気分になってきます。なんだか心が洗われました。



追分の皆様、たくさんの御浄財までいただき、ありがとうございました。

▲ 田中氏が描く「樹下石仏」

まち・コミ活動報告



共同再建支援

ボーリング調査、遺跡調査、そして仮換地指定へ！

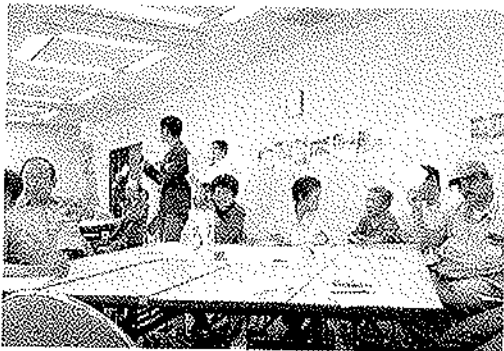
4月に無事、第1回目の「総会」を済まし、新たに2名の参加者を得た「共同化住宅建設組合」。5月にはボーリング（地質）調査を終え、いよいよ6月から遺跡調査の「試掘」が始まります（本誌2月号参照・御蔵通5丁目の本建築は調査が必須）。遺跡の調査は2～3ヶ月かかる見通しです。6月末～7月初旬には仮換地指定が行われる予定です。



まちづくり支援

住民総会と公園のワークショップを開催

～そして恒例「夏まつり」



▲公園ワークショップでのひとコマ

5月17日、「98年度御蔵通5・6丁目町づくり協議会総会」が開かれ、97年度の事業報告と決算報告がなされました。残念ながら、過去の住民集会の中で一番参加者数が少なく、区画整理の仮換地が進行している現在を、ある意味浮き彫りにさせる結果となりました。また総会のあと、アーバンプランニング・関西総合研究所による公園のワークショップも開催。8月には恒例になった「夏まつり」が行われる予定です。



勉強会の企画

名づけて「神戸パースペクティブ」。6月末より始動。

「震災しみん情報室」との共同プロジェクトのひとつとして、現在準備中の小人数制の勉強会「神戸パースペクティブ」。「パースペクティブ＝展望・見通し」を被災地支援活動を行っているグループの方々やまちの方々と、共に学び探っていこうというものです。現在確定している講師の方は、日本銀行神戸支店長・山口竹彦氏、神戸大学教授・室崎益輝氏。その他、各氏に交渉中です。



その他

NPOフォーラム関西会議・分科会の担当スタッフの一員に。

7月4・5日に大阪で行われる第2回NPOフォーラム。2日目に行われる分科会のコマのひとつ「災害とまちづくり」の担当スタッフとして小野が参加。興味のある方は、まち・コミまでご連絡を。

公的支援を考える、緊急ゲリラ的企画「エイド」発動。

テーマは「公的支援実現の先に見える、NPO・NGOが創る公益的な支援」。本誌6ページでも触れましたが、「再建支援法」実現を受け、“今被災地に必要なこととは何か”を多くの方々と共有しようという企画です。まずは各グループへアンケートを取り、今回できた法律についての感想や、今現在、各々の現場で抱えている課題について伺いたく思っています。

まち・コム行々!

5月

- 1日 田中社長、長野県軽井沢泉洞寺で講演
- 6日 みくら567わが街の会
- 13日 都議団視察受け入れ
- 17日 御蔵5.6丁目まちづくり協議会総会
- 22日 第1回市民活動広場学習会議「NPO法徹底勉強会」
- 28日 長田団体連絡協議会
- 13・20日 共同化組合会議
- 14・28日 御蔵5.6丁目まちづくり協議会役員会
- 17・24・26・27・28日 公的支援についての打ち合わせ
- 18・20・21・29日 NPOフォーラム関係の打ち合わせ

G・Wは短かいながらも各自休養をとり、「さあ」と気合いを入れるとこの暑さ!

事務所大改造計画は突入してはみたものの、意外に(当然?)後始末に手間取っております。来月号には、ご報告できるはずですよ…よね?(さかい)

募金・協力 (4/29~5/31)

ありがとうございました! (敬称は略させていただきます。)

●募金●

『おおさかの街』編集部 (大阪府)
 塩見 薫 (東京都)
 豊根三恵子 (神戸市)
 榊森長組神戸支店 (神戸市)
 服部銚二郎 (東京都)
 村上美奈子 (東京都)
 浅野幸子 (京都府)
 若松亮太 (三重県)
 上田耕蔵 (神戸市)
 山田卓也 (東京都)
 岩本 修 (神戸市)

秋馬正弘 (神戸市)
 浅間山 泉洞寺 壇信徒一同 (長野県)
 明星大学文学部 渡戸一郎 (東京都)
 神戸大学発達科学部 平山洋介 (神戸市)
 中畑房子 (広島県)
 木村 徹 (広島県)
 榊海文堂書店 島田 誠 (神戸市)
 竹内 裕 (北海道)

●協力●

長田 光 (千葉県)
 榊兵庫商会 (神戸市)
 曹洞宗国際ボランティア会 (東京都)

お詫び 先月号にお名前のお間違いがございましたので訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。
 室崎益洋 (神戸市) → 室崎益輝 (神戸市)
 大本山永平寺 不老閣 北野泰成 (福井県) → 大本山永平寺 不老閣内 北野泰成 (福井県) (敬称略)

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願いたします。

【郵便振替口座番号】 00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」

また、この通信紙を継続的にお読みになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

- ★ やっと、決算出しました。事務って大変です……。次回からは、神戸以外の地区の話をお伝えできれば、と思っています (浅野)
- ★ 「震災・まち・ひと」は一気にコンセプトを変え、発信です (苦し紛れではない!)。ご意見・ご感想を求めます!! (小野)
- ★ 海が私を呼んでいます。私には聞こえるんです。何て言ってるかは、ナイショです。でも、今度の「御蔵学校」に参加してくださる方には、きっとバレてしまうと思います。(酒井)